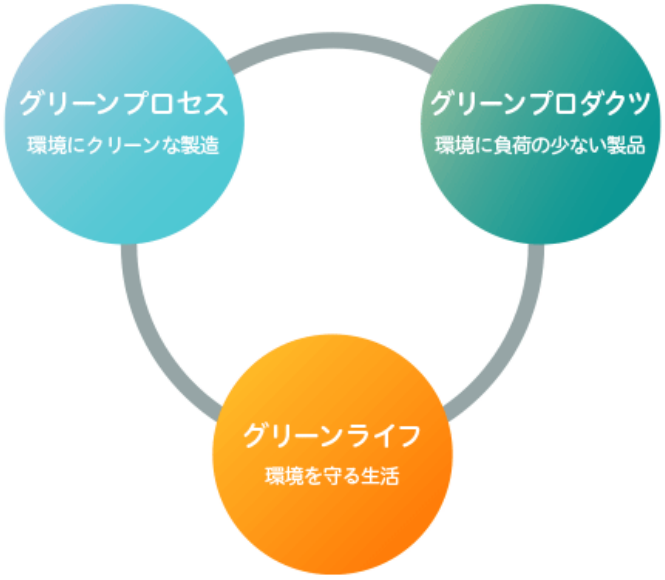
グリーンプラン・環境方針

グリーンプラン

SIIグループでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。



SII グループ環境方針 2017 年 1 月改定

■ 環境理念

SIIグループは、企業活動と地球環境との調和をめざし、3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとし、環境活動に取り組み、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献します。

■ 環境活動指針

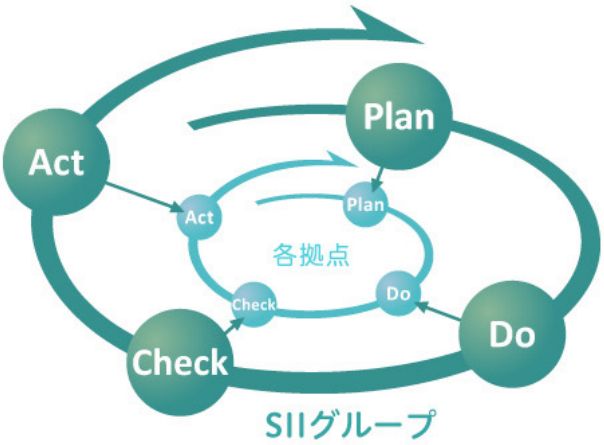
1. 環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスを継続的に改善しながら、社会の要請に応えた先進的な活動に努め、ステークホルダー価値の向上を図ります。
2. 法令及びその他の義務の遵守はもとより、環境リスクの低減と汚染の予防に努めます。
3. 「匠・小・省」※1 の技術を礎に、以下を重点項目として取り組みます。
   1.ライフサイクルにわたって環境に配慮し、加えて環境保全に貢献できる製品・サービスを提供します。
   2.環境に配慮した効率的なものづくりを積極的に推進します。
   3.全ての企業活動において省エネルギーを徹底し、地球温暖化防止に努めます。
   4.資源の有限性と貴重さを認識し、地球資源の責任ある利用を図ります。
   5.化学物質によるリスクを低減させると共に、有害物質の排除を推進します。
4. グリーン購入を推進すると共に、製品含有化学物質の適切な管理を徹底します。
5. 生物多様性への影響とその恩恵を認識し、生物多様性の保全に努めます。
6. 社員の環境意識の向上を図り、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努めます。
7. 環境に関する社会貢献と説明責任を果たしながら、社会とのコミュニケーションを推進します。
8. サプライヤーの皆さまにも、本方針にご協力いただくよう推進します。

※1「匠・小・省」:SIIの技術理念

環境マネジメント

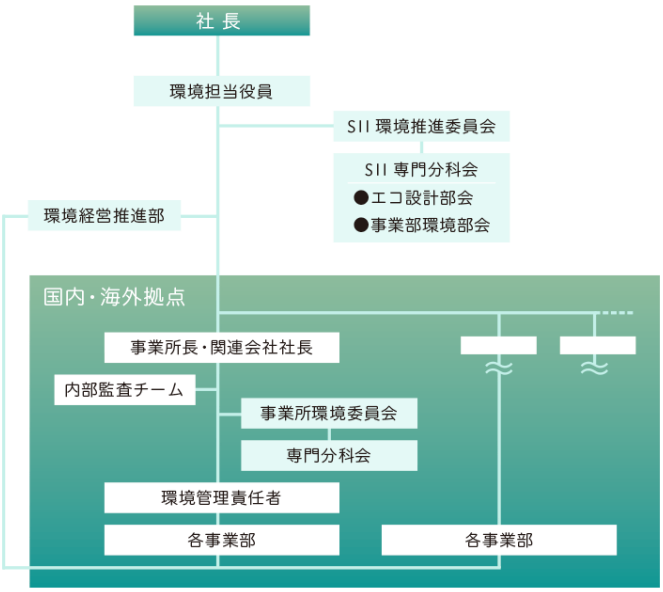
環境マネジメントシステム

SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。
「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。
その活動実績は定期的に本社の環境経営推進部へ報告され、環境経営推進部では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。



環境経営推進体制

SIIでは、社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。拠点単位と事業部門単位の２つの体制を備え、各々の課題に応じた取り組みを、環境経営推進部が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。



SII環境推進委員会では、SIIグループの中期計画の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。2020年度の委員会は、コロナ禍でも中止することなく、web会議ツールを利用し予定通り開催しました。

環境配慮・貢献製品

グリーンプロダクツの進化　－環境に配慮した製品・貢献する製品－

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を環境経営の基本コンセプトにしています。
中でも、グリーンプロダクツ、すなわち環境に配慮し、また貢献できる製品を創出していくことはメーカーの使命だと考え、SIIの技術理念である「匠・小・省」をベースに、環境に配慮した製品・貢献する製品を提供しています。

SIIグリーン商品

SIIでは、2001年12月に「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入、2006年10月には「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入し、製品自体の環境性能を確実に向上させてきました。

グリーンプロダクツplus

製品自体の環境性能の向上に加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を『グリーンプロダクツplus』と名付け、製品やサービスの提供に注力しています。

提供範囲の拡大
－ソフトウェア・サービス－

これまでのハード製品（機器、部品等）での運用に加えて、新たにソフトウェア・サービスにもグリーン商品ラベル制度の運用を開始しました。

SIIの製品を支える「匠・小・省」の技術

SIIの技術理念
「匠」：一歩進んだものを、「小」：ミニマムサイズで、
「省」：環境にやさしく創ること。
これを"SYO"ismとして表しています。

気候変動

「脱炭素社会」の実現に向けて、企業が果たすべき役割や責任はますます大きくなっています。同時に、自然災害の多発など、気候変動による事業上のリスクは年々高まってきています。
SIIは、ものづくりの現場での省エネ活動はもとより、各事業会社が提供する製品・サービスにいたるまで、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。これらの活動を継続しながら、再生可能エネルギー導入など、脱炭素に向けた取り組みをさらに強化していきます。

2020年度の総括と今後の取り組み

2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、SIIはウオッチ事業をセイコーウオッチ(株)に移管、また、研究開発・生産技術開発機能をセイコーホールディングス(株)に移管しました。
これらに加え、コロナ禍の影響もありCO_2排出量をはじめとするSIIの環境負荷も大きく減少しました。
CO_2排出量削減の活動としては、設備の効率的な運用などの継続的な取り組み、照明器具などのLED化や設備更新にも努めました。また、海外拠点では再生可能エネルギーを導入しました。
今後は中長期的なビジョン、目標値を再設定し、脱炭素に向けた取り組みを加速していきます。

資源循環

海洋プラスチック問題、食品ロス、衣服ロスなど、資源を利用し製品やサービスを提供するメーカーにとって資源循環は重要な経営課題であり「循環型社会」の形成に向けて果たすべき責任はますます重大になってきました。
SIIでは製品の材料となる鉱物資源やプラスチック、木材や紙などの生物資源、また生産工程では化学物質や水資源など多くの資源を利用しています。製造・販売の場面だけではなく、原材料採取から廃棄・リサイクルまでの全ライフサイクルにおいて、資源の有効活用や廃棄物の削減に努めています。製品の長寿命化や小型軽量化によるリデュースや、再生材の利用や再資源化によるリサイクルを徹底しています。

廃棄物

■ 2020 年度の総括と今後の取り組み

2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、SIIはウオッチ事業をセイコーウオッチ(株)に移管、また、研究開発・生産技術開発機能をセイコーホールディングス(株)に移管しました。
これらに加え、コロナ禍の影響もあり、廃棄物排出量をはじめとするSIIの環境負荷も大きく減少しました。
今後は中長期的なビジョン、目標値を再設定し、循環型社会に向けた取り組みを加速していきます。

水使用

■ 2020 年度の総括と今後の取り組み

SIIでは、水は貴重な自然資本であるという認識のもと、水資源の3Rに取り組んでいます。水使用量そのものの削減とともに、製造工程で使用した水の再生利用にも取り組んでいます。2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、水使用量も減少しました。

生物多様性保全

SIIは、事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、同時に影響を与えている企業として、生物多様性の保全は環境経営の重要課題であると考えています。SIIでは2011年4月に生物多様性行動指針を策定し、具体的な取り組みを開始しました。各事業所では生物多様性に配慮した土地利用、植栽活動、ステークホルダーとの連携など事業所の特性に合わせた生物多様性活動を推進し、「自然共生社会」の実現を目指しています。

2020年度の総括と今後の取り組み

SIIは、自然共生型社会実現への貢献 －いきものと共生する事業所－を目指すことを目標に掲げています。2020年度は生物多様性の見える化に取り組みました。事業所に生息するいきもの調査、撮影や記録、また、それらの結果を事業所内で共有することで、生物多様性の見える化、理解が進みました。また、「SIIグループ生物多様性土地利用ガイドライン」に基づく活動も継続しました。今後は、ポスト愛知目標を参考にしながら新たな取り組みを検討していきます。

生物多様性に配慮した土地利用

多様性土地利用ガイドライン」を発行し、ガイドラインに基づいた事業所緑地の利用や、地域の生物多様性保全への貢献活動を継続的に実施しています。2020年度も各事業所では事業所の特徴をいかしたさまざまな取り組みを展開しました。

■ 絶滅危惧種の保護

大野事業所では、2020年6月に実施したいきもの調査にて、敷地の一角に絶滅危惧種（環境省・絶滅危惧Ⅱ類）であるキンラン14株を発見しました。発見当時は開花時期は過ぎていましたが、2021年4月には8株の開花した姿を確認できました。大野事業所は都心に近い千葉県市川市に立地し、事業所周辺は住宅に囲まれている環境ですが、そんな中でキンランが発見されたことは大変喜ばしいことであり今後も見守っていきます。また、大野事業所は市川市の「生物多様性モニタリング調査員」に登録し、事業所内でいきものを発見した際には「いちかわ生きものマップ」への投稿を行っています。

化学物質管理

環境汚染や事故の原因となる化学物質は、正しく安全に管理していくことはもちろんのこと、使用量の削減や安全性の高い化学物質への代替など、環境負荷低減に向けた取り組みも企業の重要な責任です。化学物質を使用しているSIIの各拠点では適正な管理や削減活動、また継続的に化学物質管理の教育や訓練を行っています。

2020年度の総括

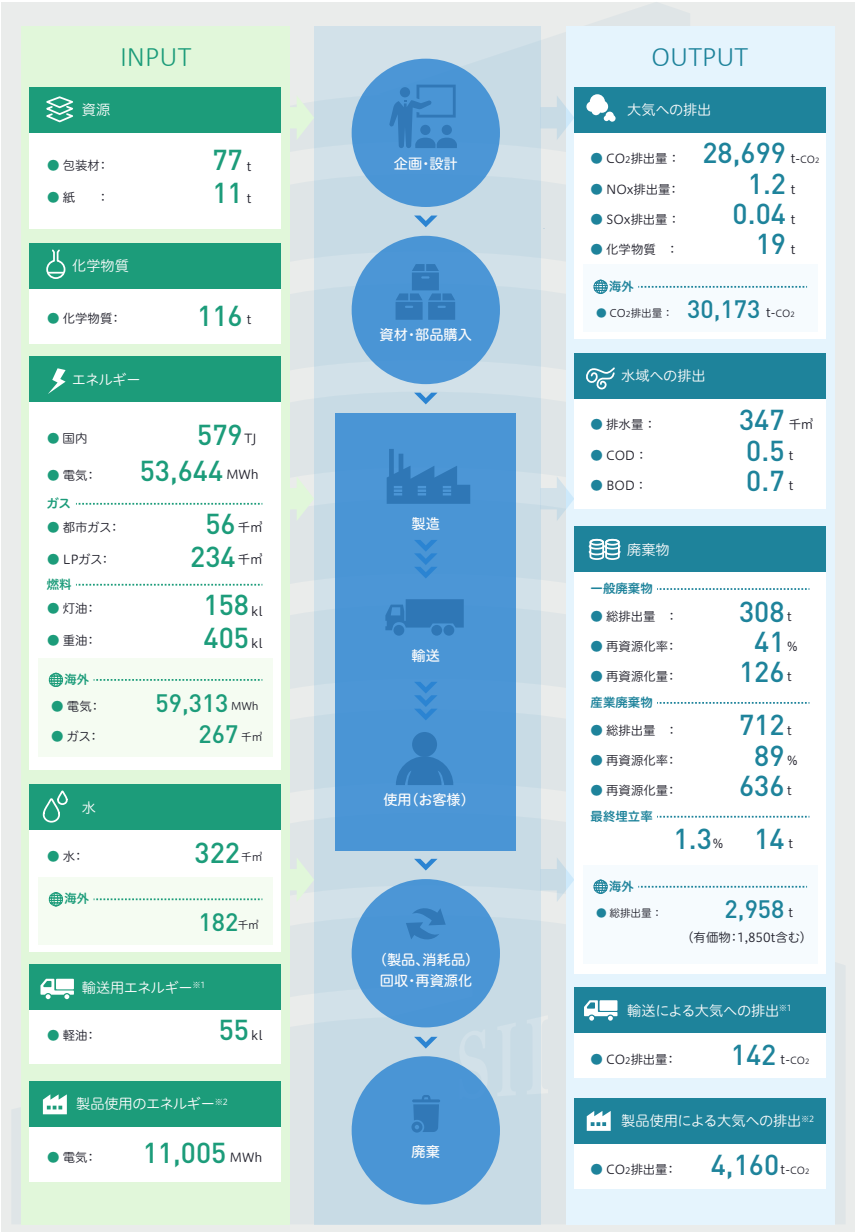
2020年度の製造工程におけるSIIが定めた管理対象物質[※1]の排出量は19.2トンで、前年度実績より約5トン削減しました。また、PRTR法[※2]対象物質の取扱量は45.8トンで、こちらは前年度より27.6トン削減しました。削減の大きな要因は2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編によるものです。

※1 SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質（23物質）とVOC（揮発性有機化合物：100物質）を排出量削減の管理対象としています。

※2 PRTR（Pollutant Releaseand Transfer Register 化学物質排出移動量届出制度）化学物質の取扱量、環境中への排出量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量などを把握・集計し、公表する制度。企業はこの制度の対象となる化学物質について集計し、行政機関に年に1回届け出る。

事業活動と環境負荷

SIIグループは、環境負荷を製品のライフサイクルを通して的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。2020年度の環境負荷の概要は次の通りです。



INPUT		
包装材	:	容器包装リサイクル法の対象となる紙・プラスチック
紙	:	社内で使用するコピー用紙、プリンター用紙
化学物質	:	PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF_6、NF_3、VOC
電気	:	電力会社からの購入電力
ガス	:	都市ガス、LPガス
燃料	:	灯油、重油、軽油
水	:	上水道、工業用水、地下水

OUTPUT		
CO_2	:	電気、ガス、油、冷温水などの使用により発生する二酸化炭素
NOx	:	ガス、油などの使用により発生する窒素酸化物
SOx	:	油などの使用により発生する硫黄酸化物 ※ NO_x、SO_xは大気汚染防止法で規制されるばい煙発生施設を設置している事業所に限定
化学物質	:	PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF_6、NF_3、VOCの大気・水域への排出量
排水	:	河川、下水道への排水
COD	:	汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の総量規制対象事業所に限定
BOD	:	汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の特定施設設置事業所に限定
一般廃棄物	:	事業活動に伴い発生する廃棄物のうち、紙ゴミ、生ごみなど
産業廃棄物	:	事業活動に伴い発生する廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、燃え殻、汚泥など
最終埋立率	:	廃棄物総発生量に対する最終埋立処分量の比率

※1：輸送：国内のSIIグループ間の輸送のみを対象

※2：使用：2020年度までのSIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計。